



## 新しい年を迎えて

中学部副校長 須賀 一輝

新年あけましておめでとうございます。昨年は地域の方々や保護者の皆様をはじめ、たくさんの方々の深いご理解と温かいご支援を賜り、おかげさまで小中一貫10周年を盛大に祝うことができました。まことにありがとうございました。

新しい年を迎えて、旧年を振り返り自身の成長を確認して、新たな誓いを立て決意を新たにします。私たち大人は年齢を重ねるにつれて、活力の衰えを実感して寂しい思いをすることもあって、一年が短く感じられるようになってきますが、若者にとっての一年は実に長いものです。霧が丘学園の子どもたちはとても充実した一年間を過ごしています。

泣いたり笑ったり、喜んだり怒ったり、一日の中に多彩な表情と多様な思いが詰まっています。先ほどまで涙を流していた子がとびっきりの笑顔を見せます。少し前に喜んでいた子が深刻に悩む表情になります。とても短い時間の中で子どもの感情は大きく揺れ動きます。

授業では集中して学習に取り組み、頭を働かせて考えを深めています。そうだったのか、と納得するときもあれば、えっ、とまた次の疑問が生じてくるときもあります。教師の導きや級友との学び合いから、発見がありまた疑問がわき、より深い学びへ進んでいきます。

友人の気持ちに同感して共に語り合うときもあり、誤解し対立して言い争うこともあります。友人の魅力ある一面を発見して驚くことも、触発されて自らの個性を意識することもあります。友人との協働体験や心理的葛藤を通して、豊かな人間性を身につけていきます。

子どもたちは鋭敏な感性で様々なことを感じながら、密度の濃い時間を過ごしています。子どもたちは皆自分なりに悩み考えながら、充実した一日を過ごしています。子どもたちにとっての一年はとっても長く、一年間の成長は目を見張るものがあります。義務教育学校の9年間は本当に、子どもが大人に成長していく時期、見事に変身していく過程です。

若者の成長に期待して次の世代に橋渡しする、という教育の使命を考えながら、一世代後のことを想像することがあります。一世代約30年後はどんな世の中になるのでしょうか…？今から30年前（ドイツ再統一、バブル崩壊、スーパーファミコン、ポケットベル、等々）を思い起こして、技術の進歩と社会の変化の加速度を考え合わせて想像すると…はてさて…？

子どもたちが生き抜く将来、成長して切り拓く未来は、どのような社会になるのでしょうか。1年では大きな変化はなくても、10年20年そして30年という間には世の中は大きく変わるはずですが、いずれにしても今の子どもたちが、将来の世の中を創っていくことだけは間違いありません。目の前の子どもたちを温かい目で見守り、つまずいていたら機会を逃さず支えたいものです。良い行動はおおいに褒めて、まずい行動はきちんと叱ってあげたいものです。幸福な未来を託す気持ちを込めて、子どもたちを大切に慈しみ豊かに育みたいと思います。本年も霧が丘学園の子どもたちをなにとぞよろしくお願い申し上げます。